

災害派遣 令和6年能登半島地震



よなば

第617号
令和6年3月発行
電子版第74号

「地域と共に」



警察署との調整



業務隊支援物資の積載



配膳



学校の机や椅子を運搬



派遣出発



給食支援



業務隊24時間燃料給油支援



物資輸送



交通誘導を行う警務隊長



派遣部隊への防犯資料の提供



派遣報告



野外入浴施設の設営



徽章の授与

三月十四日、米子駐屯地において最先任上級曹長交代式が行われた。下番最先任上級曹長 准陸尉小谷一哉は、令和五年三月から第八代最先任上級曹長兼ねて駐屯地最先任上級曹長に上番し、「明日への創造」を抱負とし、准曹士の最上位職として准曹士の育成に尽力した。訓練検閲を始めとする各種訓練等において、積極的に現場に進出して指導し、隊員の基礎的戦闘能力及び分隊長等の指揮・指導能力を向上させ、現場で判明した問題点等については各級指揮官、幕僚等と密接に連携して速やかに解決を図る等部隊の精進強化に寄与した。

また、服務指導においては各中隊先任上級曹長と密接に連携し、隊員の身上把握と躰指導に努め、生活環境及び勤務環境の改善を行い、駐屯地に多大な貢献をした。三月十八日付で第十三旅団最先任上級曹長に上番し、今後更なる活躍が期待される。

上番最先任上級曹長 准陸尉 玉木 敦は、島根県出雲市出身で平成十年三月、第八普通科連隊に入隊し教育修了後、重迫撃砲中隊、旅団改編により平成十一年から本部管理中隊に配置、平成三十年から第三十二普通科連隊



駐屯地司令に対する報告



上番・最先任上級曹長 玉木准尉訓示

また、現在四十四歳と若さ溢れるその勢いと卓越した指揮能力で、曹士の最上位職として親愛の情を持って指導にあたってくれるものと確信し、これからの活躍に期待したい。

令和六年一月一日午後四時十分、マグニチュード7.6、最大震度7を観測した地震が石川県能登地方を震源として発生した。この地震により、建物の倒壊、津波被害、断水及び大規模火災等の被害を震源地である能登地方及び周辺地域は受けた。

陸上自衛隊第十師団は、災害派遣要請を受け石川県金沢駐屯地を拠点とし、直ちに被災した地域の人命救助・捜索及び生活支援等を行った。中部方面管内の各部隊は、情報収集及び派遣準備等を行い、派遣準備を整えた。

また、拠点となつた金沢駐屯地には、駐屯地の燃料スタックを二十四時間稼働させる等の兵站業務支援として、米子駐屯地から陸曹四名が派遣され支援活動を実施した。

第八普通科連隊は、主に物資輸送及び生活支援（給食）等の任務を行い、石川県輪島市において約五十名の隊員が支援活動を実施した。

現地では活動した隊員は、生活物資の運搬、積載の他、被害に遭つた学校の机や椅子の運搬、積雪でスタックした二般車両の救援など、さまざまな不測の事態にも冷静に対応し与えられた任務を行った。

生活支援（給食）は、野外炊事車で調理を行い、被害に遭つた現場の方に配膳し、温かく美味しい食事を毎日提供した。

また、中部方面隊に所属する駐屯地業務隊は、生活支援の為に物資輸送としてフォークリフトを使用し、大型トラックにミネラルウォーター及び加熱剤といった物資の積載を行い、近隣の駐屯地まで運搬した。

また、拠点となつた金沢駐屯地には、駐屯地の燃料スタックを二十四時間稼働させる等の兵站業務支援として、米子駐屯地から陸曹四名が派遣され支援活動を実施した。

また、服務指導においては各中隊先任上級曹長と密接に連携し、隊員の身上把握と躰指導に努め、生活環境及び勤務環境の改善を行い、駐屯地に多大な貢献をした。

また、現在四十四歳と若さ溢れるその勢いと卓越した指揮能力で、曹士の最上位職として親愛の情を持って指導にあたってくれるものと確信し、これからの活躍に期待したい。

最先任上級曹長交代式



いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集

詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで
TEL: 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索

旅団部隊スキー指導官



徽章授与式

第八普通科連隊は、一月上旬から二月下旬までの約二ヶ月間、だいせんホワイトリゾートスキー場、日光演習場及び周辺地域において、旅団部隊スキー指導官(養成・練成)集合教育を実施した。自衛隊スキーのプロフェッショナルとも言える部隊スキー指導官は、積雪地において部隊が行動する上で必要不可欠な存在である。そのため、冬季における十分な知識及び技能を有することが求められ、スキー技術以外にも課目試験及び指導法などの各種試験に合格した者のみが認定され、合格者には部隊スキー指導官の証であるスキー徽章が授与される。

本教育に参加した各中隊等から選抜された隊員は、冬季における部隊の指導者を目指し日々練成に励み、訓練は初級技術から中級・上級技術へと段階的に教育が実施され、教官・助教が一体となり、部隊スキー指導官の認定試験に向けて必要な技術の修得に励んだ。

二月下旬に行われた認定試験においては、積雪が少なく、厳しい条件の中での試験であったが、それぞれの隊員がこれまでの練成成果を十分に発揮し、六名の隊員が新たに部隊スキー指導官に認定された。

今回見事合格し、認定された指導官らの新たな飛躍に期待したい。



斜面技術



平地技術



教育の様子

- 【部隊スキー指導官に認定された隊員】
- 第八普通科連隊(米子)
- 本管中隊 川崎三曹
 - 第二中隊 大溝三曹
 - 井上三曹
 - 第三中隊 西本三曹
 - 松本三曹
 - 第三八二施設中隊(富山) 坂田三曹

優秀隊員表彰

第二中隊陸曹長 加納 洋竜は、一月二十七日、兵庫県伊丹市に所在する、伊丹駐屯地で行われた中部方面隊優秀隊員招待行事において、中部方面総監 陸将 堀井 泰蔵から表彰された。

この招待行事は、中部方面官内のそれぞれの部隊から、選考により選抜されるこの度、さまざまな功績を評価され見事選抜された。

加納曹長は、レンジャー特技保有者であり、富士学校レンジャー班先任助教として幹部レンジャー課程三百十五名及び助教課程七十四名を養成する等陸上自衛隊の精強に大きく貢献した。

また、レンジャー集合教育(養成)において助教とし



機動訓練



学科試験



中部方面隊から表彰された加納曹長



ロープ教育



冬季戦術教育



表彰された井ノ上三曹

必要な戦闘行動等を普及し部隊の練度向上に努めている。

加納曹長は、今後もさまざまな特技を活かし部隊の精強に努めていく。

また、第二中隊二等陸曹 井ノ上 仁は、二月二十五日に米子市文化ホールにおいて、令和五年度米子市スポーツ協会スポーツ表彰に選出され表彰を受けた。

井ノ上三曹は、六月に行われた第四十回鳥取県銃剣道選手権大会兼国体予選会において、個人の部及び団体の部において優勝し、十月中旬には鹿児島県で実施された国民体育大会に主将として出場し、団体の部において第三回戦(ベスト16)まで進出した。

また、連隊銃剣道訓練隊では、選手として練成に励みながら、教官としてチームをまとめ人材育成にも励んでいる。

連隊は今後も、さまざまな分野で活躍できるよう戦技技量向上に努めていく。

国民スポーツ冬季大会

冬季戦技訓練隊は、二月下旬に山形県で行われた国民スポーツ冬季大会(スキー競技会)に連隊から四名の隊員が鳥取県代表として出場した。

一月中旬に鳥取県大山町において行われた鳥取県予選会では、成年男子A(44キロ)の部において第二中隊 湯栗士長が若さ溢れる力走を見せ第三位と健闘し、成年男子B(44キロ) 第一中隊 岡田三曹、成年男子C(22キロ) 第一中隊 三好曹長がそれぞれの部において優勝し、第二中隊 川端一曹は三好曹長に続き第二位の成果を収め、山形県で行われる国民スポーツ冬季大会(スキー競技会)への出場を決めた。

国民スポーツ冬季大会(スキー競技会)では鳥取県代表として、全国の強豪と戦い日頃の練成の成果を十分に発揮した。

結果は惜しくもそれぞれの部において、目標であった入賞とはならなかったが、若手からベテラン選手までチーム一丸となり大会、挑み、大きな収穫を得た。その後、訓練隊は北海道の西岡バイアスロイン競技場で実施された第六十回日本選手権大会にも出場し、若手隊員の貴重な経験の場となった。

今後も冬季戦技訓練隊は、年間を通して更なる練成を重ね新たな目標へ向け歩んでいく。



国民スポーツ大会 三好曹長



国民スポーツ大会 川端一曹



日本選手権 岡田三曹



日本選手権 湯栗士長

連隊野営訓練

第八普通科連隊は、二月下旬から三月上旬に、日本原演習場(岡山県)及びあいはら野演習場(滋賀県)において、隊員の戦技技量向上及び射撃訓練向上を目的として連隊野営訓練を行った。

日本原演習場においては、81mm迫撃砲及び12.7mm重機関銃の実弾射撃訓練を実施した。81mm迫撃砲は、陣地侵入から一連の状況下での射撃訓練を行い、観測手からの射撃要求を受けた小隊は、それぞれの所掌を連携し、正確・迅速に精度の高い射撃を行った。

悪天候の中であったが、昨年四月に入隊した隊員も積極的に行動し、それぞれの任務を完遂した。

12.7mm重機関銃の射撃訓練においては、初めての隊員もいる中、事前教育や射撃予習を積み重ね、射手及び観測手をそれぞれ行い、精度の高い命中率を見た。

冬の寒さも厳しく、雪の舞う中、視界も制限を受け厳しい状況の中ではあったものの、隊員はひたむきに射撃任務を遂行した。

あいはら野演習場において、小銃小隊を主体とした戦闘射撃及び狙撃手による潜入訓練、対人狙撃射撃を行った。

戦闘射撃においては、課目を攻撃として、小隊長指揮の下それぞれの分隊、組で連携を図り、最大限火力を発揮しつつ敵を減殺し、

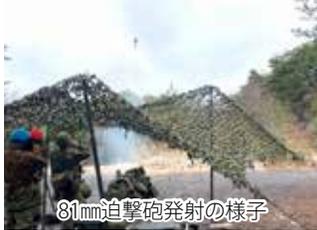
目標を奪取した。

また、夜間における戦闘射撃訓練も行い、小隊は視界や連携が制限を受ける中ではあったものの、小隊長・分隊長を中心に見事な連携を見せ任務を完遂した。

狙撃手による潜入訓練においては、潜入経路を選定し目標となるターゲットの発見、射撃、離脱までを広域な演習場を最大限活用し狙撃手として必要な技術の修得に努めた。

また、対人狙撃射撃においては、長射程での実弾射撃を行い、射手・観測手としての練度向上に努めた。

連隊は今後も更なる練度向上に努め、「真に戦える部隊」を目指し訓練を重ねていく。



積雪地訓練

第八普通科連隊は、積雪寒冷地部隊として一月上旬からだいせんホワイトリゾートスキー場、日光演習場及び周辺地域において積雪地におけるさまざまな訓練を行った。

スキー場における斜面技術は、ちろんのこと平地滑走、部隊機動、宿営など予想されるさまざまな事態に対応できるよう各中隊は、部隊スキー指導官を中心として冬季における積雪地訓練を行った。

その中でも第二中隊は冬季における行方不明者捜索訓練を日光

演習場周辺地域において行った。訓練は、中隊の部隊スキー指導官を中心として、十二月中旬からこの訓練を計画し、これまでの経験及び知識を最大限活用し中隊の幹部から二等陸士に至るまで教育を行った。

事前教育では、行方不明者の救助要領、ロープ技術及びアキオ(ソリ)を使用した搬送要領などを教育した。

また、行方不明者の情報や手がかりをもとに救助計画の作成及び任

務分析を行い、それぞれの地位と役割を明確化し総合訓練へつなげた。

総合訓練では、事前教育で培った知識及び技術を最大限活用し、スキー機動で迅速に捜索地域へ前進し、行方不明者発見後は、低温症の兆候が見られる患者に対してラッピング処置を迅速に行い、アキオで車両の推進が可能な地域まで搬送した。

連隊は今後も部隊スキー指導官を中心としてそれぞれの隊員が、積雪寒冷地部隊として冬季におけるさまざまな事態に対処できるよう更なる訓練を行っていく。



部隊格闘指導官

一月上旬から三月上旬までの間、海田市駐屯地(広島県)において旅団部隊格闘指導官が実施された。

部隊が任務を遂行する上で、近接戦闘能力(格闘技術)は射撃技術と同様に必要不可欠であり、部隊格闘指導官は近接戦闘のスペシャリストとして部隊で非常に重要な存在である。

教育に参加する隊員は、素養

試験を突破し、約二カ月間の厳しい教育を乗り越えた者だけが、部隊格闘指導官として認定を受け「格闘徽章」が授与される。

連隊からその厳しい教育に自ら志願し、見事二名の隊員が新たに部隊格闘指導官として認定された。

学生は、約二カ月間の教育を受け、二月下旬に実施された認定試験を見事合格し、部隊格闘指導官として「格闘徽章」を授与された。

また、助教として連隊から三名の指導官が教育に携わり、旅団格闘指導官の育成に尽力した。

今回、部隊格闘指導官として認定された二名の隊員は、今後更なる練成を重ね、部隊の即戦力として今後も活躍していく。

【連隊から部隊格闘指導官に認定された隊員】

第二中隊 東山三曹

第三中隊 外池三曹



連隊情報共有会

第八普通科連隊は隊員に対し、期に一回を基準として、連隊情報共有会を実施しており、連隊の各種訓練や教育入校し、最新の知識・技術を学んできた隊員が幹部から陸士に至るまでその情報を共有し、今後の訓練の糧となるよう定期的にこの共有会を行っている。

一月上旬、連隊は体育館において全隊員を対象として連隊情報共有会を実施した。

また、第二中隊 若竹三尉は、米子駐屯地三心の庭について、建設の経緯から完成に至るまで、若年隊員を対象として説明し、隊員の資質の涵養の資とした。

連隊は、今後も連隊情報共有会を継続して行っていく、自ら考え行動できる人材を育成していく。



ハイスクールリクルーター

本部管理中隊 木原 瑠香 陸士長

本部管理中隊 木原 瑠香 陸士長は二月二十二日及び二十三日、山口地方協力本部とともに、母校である山口市に所在するYIC公務員専門学校に在籍するハイスクールリクルーターとして、その翌日にはショッピングモールゆめタウン山口において、それぞれ募集広報活動及び自衛隊のPR活動を実施した。

ハイスクールリクルーターの目的は、自身の母校である高校や専門学校へ向けて、これまでの自衛隊での経験や活動状況などを説明し、学生の就職活動の環となるよう自衛隊の魅力を伝えることである。

また、自衛隊の仕事に興味を持ってもらうのももちろんのこと、若い世代にも自衛隊に対する理解と協力を深めることもこの機会を通して行った。

木原士長は山口県出身であり、専門学校を卒業する二十歳までを山口県で過ごし、自衛隊入隊後は大津・海田市駐屯地でそれぞれ教育を受け、第八普通科連隊本部管理中隊(米子駐屯地)へ配置された。

現在は弾薬手として勤務し、二月から約一ヶ月間駐屯地広報室において臨時勤務を行い、写真撮影以外にも編集、部外イベントへの参加、駐屯地見学などの対応も行った。



ゆめタウン山口 募集対象者への説明



YIC公務員専門学校での様子

YIC公務員専門学校のリクルーターでは、自ら自己紹介資料を作成し初対面の学生に対して、分かりやすく自衛隊の制度や仕組みを説明し募集広報活動を行うことでより一層募集効果が得られ、更なる自衛隊PRの場となっている。

二日間の募集広報活動を

経験して 私は、YIC公務員専門学校とゆめタウン山口の募集広報活動を通して、自分自身のこれまでの経験などを説明し自衛隊のPRを行いました。

募集活動を行う上で、どうしたら初対面の方に自衛隊の魅力を上手く伝えることが出来るか、興味を持ってもらえるかを考えました。

また、今回二月から駐屯地広報室で臨時勤務をさせていただき、写真撮影以外にも部外イベント、編集業務などのさまざまな貴重な経験をさせていただきました。

専門学校のリクルーターでは、

自衛隊の制度や仕組みの説明に興味深く聞いてもらえる方法として、自己紹介スライドの作成にも取り組ませていただき、自分自身の自衛隊に対する魅力などを伝える事が出来ました。

特に、一月一日に発生した能登半島地震の災害派遣の説明では、写真を使用し出来るだけ分かりやすく説明する工夫も教えていただきました。

駐屯地広報室が定期的に発信しているSNSの紹介では、写真だけでなく昨年から動画を取り入れ、分かりやすく情報発信をしていることなども伝える事が出来ました。

時間が限られる中ではありましたが、その中で自分が何を伝えたいのか、どうすれば興味を持ってもらえるかなどを考える良い機会となりました。

今回自分自身が行った募集広報活動で、一人でも多くの人に興味や自衛隊の仕事を理解してもらえることが出来れば良いと思っています。

今回、広報室の臨時勤務と募集広報活動を経験し、たくさんの方の事を学び教わっていただきました。

今回の経験を活かし、自衛隊での訓練はもちろんのこと、さまざまな事に挑戦しこれからも頑張りたいと思います。



イベント支援

駐屯地各種教育を実施

第八普通科連隊は、米子駐屯地において一月上旬から各種教育を行っており、それぞれの特技や技術を修得させ部隊の練度向上に努めている。

新補職者スキー訓練はだいせんホワイトリゾート及び日光演習場において訓練を実施した。

本訓練は、各中隊の実施するスキー訓練の中で、昨年入隊した隊員と定期異動により積雪地部隊経験のない隊員を対象として基礎的のスキー技術の訓練を段階的に実施し、積雪地における基礎的知識及びスキー技術の修得を目的に毎年実施している。教育参加者はスキー検定三級以上を目標に日々練度向上を図った。

第二中隊が担当した旅団集合

教育「初級らっぱ」は、駐屯地内において教育を行い、その目的は号令、命令、警報等を伝え、士気を高揚し隊容を整え、敬意を表することである。らっぱ吹奏には、起床、点呼、国旗掲揚、食事、消灯等様々な吹奏が行われており、教育に参加した隊員達は、切磋琢磨しながら吹奏技術の練度向上に努めた。

本訓練の後には、国旗掲揚、降下時に実際に吹奏し、緊張感のある中で実践経験を積んだ。

第一中隊が担当した初級ATM教育では、器材の取り扱いや射撃要領など専門的知識を数多く学んだ。

87ATMは、中射程の対戦車誘導弾であり教育では、戦闘訓練や



新補職教育

初級らっぱ教育 国旗降下

初級ATM教育

新隊員特技課程 徒步行進訓練

駐屯地釣り自慢大会

駐屯地地友会会は十一月から十二月の一ヶ月間「駐屯地釣り自慢大会」を開催した。

この企画は期間内に隊員やその家族などが釣り上げた「大物」「数」「珍種」等の自慢の釣果を写真に収め、それを共有し、大会参加者の多数決によって優勝者を決定した。

優勝は見事、八十三センチのズキシバクを釣り上げた、本部管理中隊の大國三曹が優勝、隊員家族の友人が尺アジで特別賞など大変盛り上がった。

今後も駐屯地地友会会は、家族や隊員間の交流を大切に、さまざま企画で駐屯地を盛り上げていく。

器材を携行した行進訓練等、様々な状況下を想定した訓練もいる。部隊の即戦力となるよう教育を行った。

第三中隊は、一月上旬から新隊員特技課程を担当し、軽火器としての基礎的技術や知識を修得させた。

戦闘訓練、機関銃射撃及び対戦車火器の射撃などを行い、軽火器としての専門技術を約二ヵ月半にわたって教育し二月下旬に修了式を行った。

二月上旬には、三十五キロ徒步行進訓練を行い、駐屯地協力会からの激励を受けながら力強い足取りで、約十一時間に及んだ行進訓練を乗り越えた。その後、部隊配属された隊員は、部隊の即戦力として現在活躍している。

連隊は、これらの教育を受けた隊員と共に一層強い部隊を目指し邁進していく。



記念撮影



優勝した大國三曹の釣果

特別賞の尺アジ

表彰

- 米子市二十歳を祝う会記念感想文 優秀賞 「恩返し」
- 本部管理中隊 高岡士長
- 入選 「支えられて」
- 本部管理中隊 亀川士長
- 入選 「夢、希望、家族、友人との関わり」 米子市民としての自覚
- 鹿野士長
- 本部管理中隊
- 三軒屋警備支援優秀隊員
- 第一中隊 樽谷士長
- 第二中隊 田邊士長
- 第三中隊 小俣士長
- 陸曹中級課程
- 第四陸曹教育隊長賞
- 第二中隊 有田二曹
- 第78回国民スポーツ大会スキー競技会鳥取県予選会
- 成年男子A(4.4km) 湯栗士長
- 第三位 第二中隊 湯栗士長
- 成年男子B(4.4km) 岡田三曹
- 優勝 第一中隊 岡田三曹
- 成年男子C(2.2km) 三好曹長
- 優勝 第一中隊 三好曹長
- 第二位 第二中隊 川端一曹
- 第78回国民スポーツ大会スキー競技会出場(山形)
- クロスカントリー成年男子リレー 10km x 4
- 第三走 第一中隊 三好曹長
- 第四走 第二中隊 川端一曹
- 成年男子A 10km 湯栗士長
- 第二中隊 岡田三曹
- 成年男子B 10km 湯栗士長
- 第一中隊 岡田三曹
- 成年男子C 5km 三好曹長
- 第一中隊 川端一曹
- 第二中隊 川端一曹
- 今年度における広報紙「よなごの切手代を賜り、ありがとうございました。澄田 豊様、柏木 重康様、平田 圭言様、相原 良広様の各位

編集後記

桜が開花し、春の訪れを感じる季節になりました。

新たな年度を迎えるにあたり、お子さんの卒業式、入学式など成長を感じる季節でもあると思います。

我が子も、気が付けば娘は小学校三年生となり、二人の息子は年中(五歳)年少(四歳)児クラスとなり、また年間を通して子供の行事など忙しかった年となりそうです。駐屯地も四月十三日には、自衛官候補生入隊式を控えています。

季節の変わり目は、体調を崩しやすい特に春は、寒暖差や気圧変動が大きく、自律神経の乱れから、持病が悪化する「気象病」を発症する方が多い季節です。

また、普段から肩こり、胃痛などといった症状が出る方も少なくないと思います。

そもそも一九一〇年頃までは、「肩こり」という言葉はなく、夏目漱石が書いた著書「門」の一節に「指で圧すると、頸と肩の間の少し背中に寄った局部が石のようにつらかった」と書かれていたそうです。

一説によると「肩がこる」というのは、夏目漱石の造語とも言われているそうです。

この言葉が生まれたことで、多くの日本人が肩の筋肉が固くなる症状を自覚するようになったと言われています。

「胃が痛い」という言葉も同じであり、誰かが「この辺が痛いかも、胃かもしれない」と言っても、胃が痛いという症状が広まったと言われています。

そこから日本では「胃薬」まで出すくらいですから日本の医療技術の高さを感じます。

このように、人間が生きていく中で言葉による影響力というのは、大きく、気持ちやモチベーションも何かを行う上でかなりの割合を占めると思います。

皆さんは、言葉について意識をしていますか。

友人や仲間と声をかける時は、ポジティブな言葉をかけることにより、その人の能力が二、三倍で最大限発揮できるのではないのでしょうか？

